

サッカーワールドカップの笛

南アフリカ共和国でサッカーのワールドカップが行われていますね。

このワールドカップは、4年に1度、サッカー世界一を争う、世界最大のスポーツイベントでオリンピックよりもテレビを見ている人が多いと言われています。

1930年ウルグアイ大会が第1回で今回の南アフリカ共和国が19回目となります。厳しい地域予選を勝ち抜いた32ヶ国が出場していますが、日本は今回で4回目の出場です。今回、日本は先週デンマークに勝って、1次リーグを勝ち抜き、ついに決勝トーナメントに勝ち進みました。すごいですね。

さて、今日は、ワールドカップで審判の人が使っている笛・ホイッスルのお話をします。

サッカーのワールドカップでは、10万人の大観衆が大きな声で応援しています。さらに今回はブゼラというアフリカの民族楽器のラッパが大きな音を出していますね。そんな大きな音の中でも、誰にでも聞こえなければならないのが、審判のホイッスルの音です。



ワールドカップで使われているホイッスルには、日本製で日本の工場で作られているものがあります。スペインで行われた第12回大会の時、公式ホイッスルとして初めて採用されました。その後も使われ、ワールドカップの審判が、「このホイッスルでなければ、絶対だめだ」という世界で認められたホイッスルです。現在では審判がそれぞれのホイッスルを使っています。

この世界で認められたのホイッスルは、どんな工場で作られていると思いますか。たった5人の小さな工場「野田鶴声社（のたかくせいしゃ）」という東京にある会社で作られています。そんな小さな工場が、なぜ世界で認められるホイッスルをつくることのできただけでしょうか。

それは、この工場はハーモニカという楽器を作り続けてきました。そして音を正確に出すという伝統の技術により、今までのホイッスルの欠点を改良してきたからです。

ホイッスルは外側の金属と中にコルクというボールでできていますが、社長の野田さんは、今までのホイッスルの2つの欠点を見つけました。

1つは吹いているうちに、中のコルクボールにつばがしみ込んで、音が低く濁ってしまふことです。もう1つは、金属に隙間ができて、息が漏れ、高いいい音が出ないことです。

この2つの問題をを解決するために、野田さんの研究が始まりました。研究の結果、コルクボールの小さな穴は、特殊な粉をまぶしてふさぎ、つばがしみ込まないようにしました。しかし、金属の隙間のほうは、なかなかうまくいきませんでした。野田さんの工場の周りには、たくさんの小さな工場が集まっています。野田さんが金属の隙間で苦労しているという話を聞きつけて、周りのメッキ工場の人たちが集まってきました。そして、自分のメッキの方法を教えてください、一緒に研究してくれました。

その結果、ついに4層構造のホイッスルにすることで、すばらしい音が出るようになりました。どんな小さな工場でも、今までもっていた伝統の技術ともっといいものをつくりたいという熱意とあきらめない心、そして、周りの工場の人たちの温かい協力さえあれば、世界一のものをつくることのできるのです。

いよいよ、日本が優勝目指して明日登場します。たくさん応援しましょう。

でもその時、審判の人の吹いているホイッスルにも目を向けてください。